

花きの県別生産出荷概況(4月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	4月出荷見込み 千本		主産地	4月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
バラ	千葉県	4.4 (100%)	ローテローゼ パレオ90 ノブレス	165 (100%)	130 (100%)	鴨川市	30	35	35
	群馬県	20.3 (100%)	ローテローゼ テレサ ティネケ	860 (95%)	760 (95%)	前橋市 利根沼田 甘楽富岡	30	30	40
	山梨県	4.5 (100%)	ローテローゼ サムライ	230 (96%)	220 (96%)	笛吹市	30	30	40
アルストロメリア	山形県	10.2 (101%)	レベッカ レモン オルガ アバランジェ ブッチーニ	694 (75%)	329 (88%)	JA山形おきたま JA鶴岡 JAそでうら	30	30	40
	長野県	26 (100%)	セナ、アモール、マンゴー、レベッカ、 プリマドンナ、ブッチーニ、 ドリームランド、ツアリナ、サクラメント、 ロッシーニ、バージニア 他	2,300 (100%)	1,100 (100%)	佐久 伊那 諏訪 松本	30	35	35
トルコギキョウ	群馬県	9.2 (100%)	ボレロホワイト キングオブスノー リネーションピンク	40 (100%)	35 (100%)	邑楽館林 甘楽富岡	20	30	50
	熊本県	19.4 (97%)	ミヨシ系 サカタ系 八江系など	467 (101%)	249 (101%)	熊本市 菊池 球磨	27	33	40

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	<p>厳冬期に加温を中止した作型の出荷が今後徐々に増加する。加温した作型の切花は草丈・品質とも良好。</p>	<p><b>現状</b></p> <p>西南暖地中心に出荷量は増え始めているが、震災の影響で、婚礼、送別等の需要がなくなり、低調な相場が続いている。</p>
	<p>生育順調で平年並み。停電の影響も若干見られる。重油が入手難になってきており暖房を控えるかも。病害虫等は少なめ</p>	<p><b>見通し</b></p> <p>大田花き</p> <p>3月の低調相場を受け、出荷調整や改植の前倒しなどをする産地も出てくる見込みで、例年の出荷サイクルとは異なる可能性がある。</p>
	<p>御坂町では地震による停電の影響はない。生育順調。</p>	<p>FAJ</p> <p>気温上昇とともに出荷量増。高冷地出荷も始まる。相場は震災影響の状況により未定。</p> <p>板橋花き</p> <p>震災の影響は今後も尾を引きそうで、見通し立たず。</p>
アルストロメリア	<p>出荷量は増えてきたが、東北地方太平洋沖地震の影響で燃料の確保が難しく、加温温度を下げて対応しており、今後の出荷量は例年よりも少ない見込み。</p>	<p><b>現状</b></p> <p>愛知・長野・山形・茨城産中心の入荷、各産地気温上昇とともに増加、特に愛知産に関しては日射量も十分に確保出来る状況下で彼岸・年度末需要に合わせ順調に増加。他品目同様、需要期スタート前の震災により需要は鈍化、厳しい販売となった。</p>
	<p>低温傾向で推移し暖房費節減のため前年やや下回っているが今度気温上昇とともに、4月出荷最盛期に向い増加見込み。</p>	<p><b>見通し</b></p> <p>大田花き</p> <p>愛知・長野・山形・茨城産中心の入荷、各産地最盛期を迎え増加見込み。大きな需要も見込めず、業務店・量販店中心の引合いが見込まれる。</p> <p>FAJ</p> <p>入荷量は今後の販売量次第で推移する見込み。</p> <p>板橋花き</p> <p>見通したたず。</p>
トルコギキョウ	<p>生育順調、平年並みの出荷量を予定</p> <p>低温・寡日照の影響で遅れていた分の出荷や、一部産地で4月の作付変更等もあり、例年より出荷増が見込まれる。また、3月の低温の影響で4月も出荷遅れが見られる産地あり。品質・病害虫ともに問題なし。出荷ピークは4月中～下旬の見込み。</p>	<p><b>現状</b></p> <p>主力の高知、静岡、長崎、熊本と生育も追いつき需要期へ向けて増加してきたが震災の影響もあり厳しい販売環境となってしまった。</p> <p><b>見通し</b></p> <p>大田花き</p> <p>各産地、上位等級が主体となり品質も上がって来る。数量も増加の見込み。輸入は出荷終盤となり減少。販売面では入学式、ブライダル需要を中心に、季節商材としての動きも出てくる見込み。</p> <p>FAJ</p> <p>上旬より入荷量は大幅増加となる見込み。下旬から母の日絡みの引合い強まる見込み。</p>